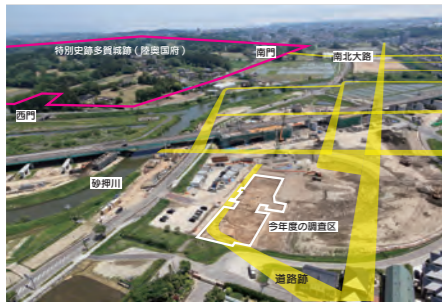


奈良～平安時代 説明が進む多賀城城下の古代都市



多賀城と碁盤目状の街並み。多賀城の南面には約110m四方の道路で囲まれた街がありました。(西から)

⑪山王遺跡八幡地区(多賀城市)

【復興調査】三陸沿岸道路仙塩道路建設工事/多賀城IC建設工事

多賀城城下にひろがる古代都市の北西部を調査しました。この地区では、平安時代になると徐々に道路が整備されて、碁盤目状の街並みが造られます。調査で発見された道路の北側には砂押川に由来する湿地が広がっているため、地形に合わせて街がつくられていることが分かりました。

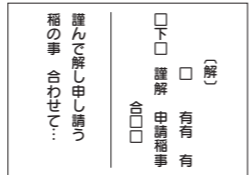


街の建物は、道路に向きを合わせて並んでいます。(北東から)

古代の砥石に刻まれた文字



砥石(15cm×4cm)



砥石に刻まれた文字



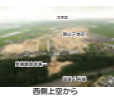
砥石の出土した竪穴住居跡

⑫鍛冶屋敷A遺跡(仙台市)

平安時代の竪穴住居跡から、文字の刻まれた砥石が出土しました。「謹んで解し申し請う稲の事 合わせて…」とは、古代の稲の借入れに使う定型文の一節です。文字が刻まれた後も砥石として使われていることから、文章を書く練習をしたと考えられます。

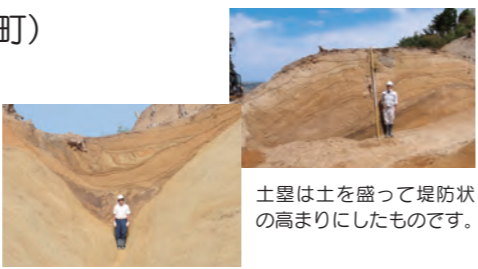
砥石に文字が刻まれている例は、これまで群馬県や千葉県で発見されているのみで、東北では初の出土になります。

鎌倉～室町時代 やまじろ 山城の大規模な防御施設 ⑬山下館跡(山元町)



【復興調査】土地区画整理事業  
標高約40mの丘陵の上にある中世の山城跡で、平場・堀・土塁が発見されました。平場は山を削り、土を盛って平らにした場所のことで、上には建物がつくられました。平場の周囲は急斜面になっており、北側には深さ4mにおよぶV字形の堀と、高さ2m以上の土塁が築かれました。これらは、平場への敵の侵入に備えたもので、当時の山城の大規模な防御施設の様子がよく分かります。

遺跡は新山下地区と町役場を結ぶアクセス道路の建設に伴い発掘調査しました。(南東から)



土塁は土を盛って堤防状の高まりにしたものです。堀はほぼ埋まった状態で発見されました。

科学技術で銅銭の文字を解読



X線CT撮影をすると、重なった銅銭の文字が読めます。写真撮影によって一部の銅銭の種類がわかりました。



さし銭とは銅銭の穴に紐を通してまとめたもので、銭の流通や保管に用いられた方法です。



神社を取り囲むように溝があります。(南東から)

| 銅銭名  | 初発行(銭にまつた年) | 枚数 |
|------|-------------|----|
| 簡元通寶 | 621年        | 2  |
| 天智通寶 | 1023年       | 1  |
| 龍泉通寶 | 1038年       | 1  |
| 治平通寶 | 1064年       | 1  |
| 元亨通寶 | 1078年       | 1  |
| 天定通寶 | 1178年       | 1  |
| 紹永通寶 | 1190年       | 1  |
| 至元通寶 | 1285年       | 1  |
| 天完通寶 | 1360年頃      | 1  |
| 永樂通寶 | 1408年       | 2  |
| 調査済  |             | 12 |
| 未調査  |             | 27 |
| 合計   |             | 39 |

⑭八幡沖遺跡(多賀城市)

【復興調査】土地区画整理事業

調査で発見された溝跡から、さし銭が出土しました。銅銭が39枚重なってサビに覆われていたため、X線CTで撮影をしたところ、その中の12枚の文字を確認できました。

撮影した銅銭はすべて中国で作られたもので、永樂通寶が含まれていることから、さし銭は15世紀初めより新しいものになります。科学技術を使うと、肉眼では見えない重要な情報が得られます。

協力(五十音順)

女川町教育委員会(内山遺跡、崎山遺跡) 気仙沼市教育委員会(台の下貝塚) 仙台市教育委員会(鍛冶屋敷A遺跡) 多賀城市教育委員会(八幡沖遺跡) 多賀城跡調査研究所(多賀城跡) 東北大学埋蔵文化財調査室(仙台城二の丸跡) 東松島市教育委員会(矢本横穴墓群) 山元町教育委員会(山下館跡)

文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>



埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

平成26年度 宮城の発掘調査パネル展

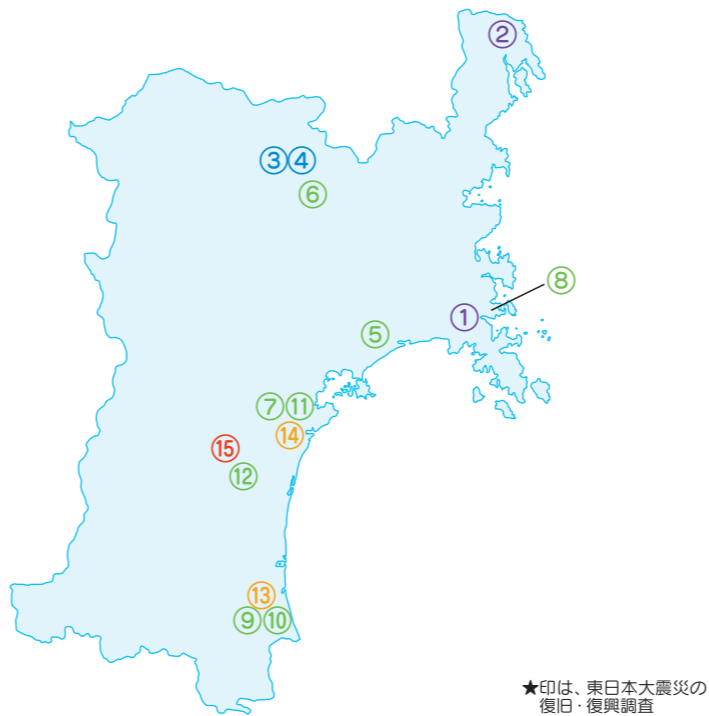
宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対しては、やむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。

このたび、平成26年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき成果のあった遺跡や遺物をパネルで紹介することにいたしました。本県では、東日本大震災の復興事業に伴う発掘件数が増加しており、県教育委員会は全国から集まった派遣職員の手助けを得て、調査の早期終了を目指しています。今回は、こうした遺跡の調査成果を中心に取り上げました。この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して御理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



| 時代   | 世代                            | 日本の主な出来事  | パネル番号                      |
|------|-------------------------------|---|----------------------------|
| 旧石器  | 約650万年前<br>約3万年前              | アフリカで人類が誕生する<br>後期旧石器時代が始まる   |                            |
| 縄文   | 約1万2千年前<br>約5000年前            | 土器・弓矢が出現する<br>三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる                                   | ★①<br>★②                   |
| 弥生   | 紀元前400年頃                      | 東北地方で米作りが始まる  |                            |
| 古墳   | 紀元後300年頃                      | 豪族が盛んに古墳を造る   | ③<br>④                     |
| 飛鳥   | 607年<br>645年                  | 推古天皇、小野妹子を隣に遣わす(遣隋使)<br>大化の改新が起こる                                   |                            |
| 奈良   | 710年<br>724年<br>752年          | 平城京(奈良市)に都を移す<br>多賀城が築かれる<br>東大寺の大仏が完成する                            | ★⑤<br>⑥<br>⑦               |
| 平安   | 794年<br>869年<br>894年<br>1167年 | 平安京(京都市)に都を移す<br>貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける<br>遷都使の派遣が停止される<br>平清盛が太政大臣となる | ★⑧<br>★⑨<br>★⑩<br>★⑪<br>★⑫ |
| 鎌倉   | 1192年<br>1274・1281年           | 源頼朝が征夷大将軍になる<br>文永・弘安の役(元寇)が起こる                                     |                            |
| 室町   | 1338年<br>1467年                | 足利尊氏が室町幕府を開く<br>応仁の乱が起こる  | ★⑬<br>★⑭                   |
| 安土桃山 | 1590年<br>1600年                | 豊臣秀吉が天下を統一する<br>仙台城の築城始まる   |                            |
| 江戸   | 1603年<br>1611年                | 徳川家康が江戸幕府を開く<br>慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける                             | ★⑮                         |
| 明治   | 1868年<br>1876年                | 明治維新<br>明治天皇が東北を巡幸する。   |                            |

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災によって甚大な被害を受けた沿岸市町では、土地区画整理などの新たな街づくりや、道路建設、鉄道移設などの大規模な復興事業が本格化し、また、個人住宅や企業の再建等も進められています。

こうした復興事業が遺跡と重なることが多くありますが、宮城県では、被災地の一日も早い復興と地域のかけがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立を目指し、関係機関と協議を重ね、迅速な調査に取り組んでいます。

◎調査体制の強化

平成24年度以降、全国から発掘調査専門職員の派遣を受けて調査員を増員し、復興事業に伴う調査に対応しています。

平成26年度は、調査を担当する県教育委員会に対して、計17～18名の専門職員の方が支援に来ています。

【H26派遣職員】(18県1市から)

- 山形県 新潟県 群馬県 長野県
- 埼玉県 岐阜県 神奈川県 三重県
- 奈良県 兵庫県 福井県 石川県
- 岡山県 島根県 山口県 香川県
- 佐賀県 宮崎県 新潟市

※三重県は4月～9月  
福井県・石川県は1月～3月

| 宮城県教育委員会の調査体制 |      |    |    |
|---------------|------|----|----|
| 宮城県(※)        | 派遣職員 | 計  |    |
| H24(上半期)      | 23   | 9  | 32 |
| H24(下半期)      | 23   | 17 | 40 |
| H25           | 23   | 24 | 47 |
| H26(上半期)      | 23   | 17 | 38 |
| H26(下半期)      | 23   | 18 | 39 |

※文化財保護課調査担当職員 20名  
東北歴史博物館(協力) 2名  
多賀城跡調査研究所(協力) 1名

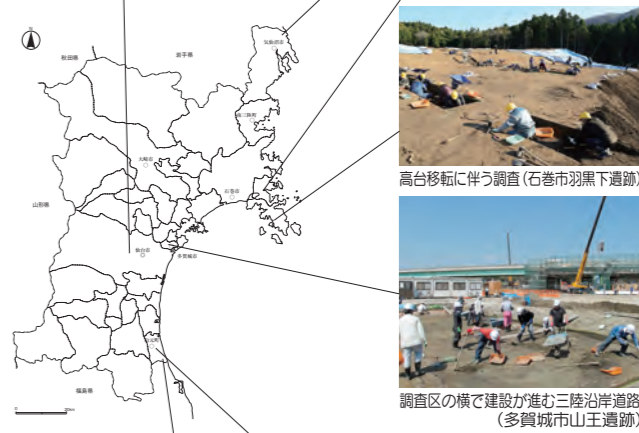
◎発掘調査基準の迅速化

復興事業に伴う調査においては、通常の発掘調査基準を弾力的に運用し、原則として遺跡が壊される範囲のみを調査対象とすることによって盛土施工部分や工事の掘削が及ばない下層の調査等を省き、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)



復旧が完了した仙台城本丸の石垣(仙台市仙台城跡) 厳冬の雪の中での調査(気仙沼市の中下遺跡) 女川湾を望む高台で、遺跡の現地説明会に集まった皆さん(女川町内山遺跡)



JR常磐線復旧に伴う調査、奈良時代の(山元町新中永塚遺跡) 険しい中世の山城跡を調査(山元町山下館跡) 全国から集まった職員を紹介(山下館跡現地説明会)

縄文時代 海を望む高台につくられた集落



遺跡は女川湾の西奥に向かって北に延びる丘陵に位置します。(南西から)

①内山遺跡(女川町)

【復興調査】土地区画整理事業

縄文時代中期末～後期初め(約4,500年前)の掘立柱建物跡や貯蔵穴群、遺物包含層(捨て場)などが発見されました。貯蔵穴は、ドングリなどの食料を保存するために使用されたと考えられます。また、遺物包含層からは土器・石器がまとまって出土したほか、魚骨や貝類、鳥や獣の骨も出土し、当時の人々の食生活を知ることができます。



貯蔵穴は直径1.0～1.2m、深さ1.1～1.5mあります。



遺物包含層からは多数の土器・石器が出土しました。

気仙沼に眠る縄文人たち

②台の下貝塚(気仙沼市)

【復興調査】高台移転事業

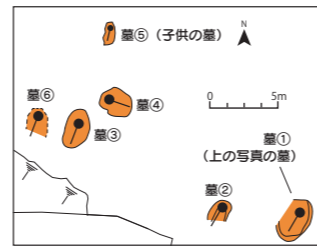
気仙沼市北部にある縄文時代の貝塚で、晩期後半(約2,500年前)の墓8基が発見されました。このうち6基は埋葬された人骨が残っており、楕円形の穴に膝を折って埋葬されていた様子が分かります。また、1基は大きさから子供の墓とみられます。これらは、ほぼ同じ時期につくられた墓と考えられ、血縁関係など今後の分析が目玉されます。



墓①の人骨。墓穴は長さ1.5m、幅1.0m、深さ1.0mあります。



墓②～⑥の分布状況(南から)



人骨が出土した墓の分布(●が頭的位置)

古墳時代 塀と大溝で囲まれた集落

③入の沢遺跡(栗原市)

周囲を一望できる丘陵上に位置する遺跡です。古墳時代前期(4世紀)の竪穴住居跡が多数発見され、大規模な集落であることが分かりました。竪穴住居がつくられた範囲は、東西約110m、南北約85mで、塀と大溝によって囲まれています。居住域と大溝の底との高低差は最大で約4mあり、一般的な集落よりも高い防御性を備えていたと考えられます。



竪穴住居は、上の写真のように火事にあったものも確認でき、焼けた柱や屋根の材、多くの道具などが出土しました。



入の沢遺跡の遺構配置図



塀の高さは推定約3m、大溝は幅約2.4～3.5m、深さ約0.7～1.5mあります。

国内最北！古墳時代前期の銅鏡の出土



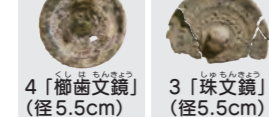
出土した銅鏡は、3種類の文様が見られます。薄く壊れやすいため、写真は土が付着した状態で撮影したものです。

④入の沢遺跡(栗原市)

竪穴住居跡から、銅鏡が4面出土しました。通常は古墳の副葬品として出土することが多い銅鏡が、集落から複数枚出土する例は非常に稀です。また、古墳時代前期の銅鏡の出土例としては、国内最北となります。この時期に、古墳文化の広がりが、宮城県の北部地域にも及んでいることを示す貴重な例となりました。

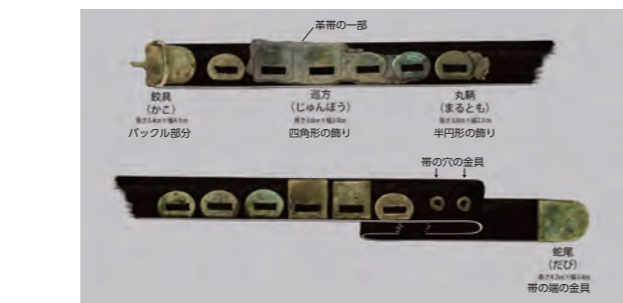


2「内行花文鏡」(径9.1cm)



4「櫛歯文鏡」(径5.5cm) 3「珠文鏡」(径5.5cm)

奈良～平安時代 おびかなぐ 帯金具がセットで出土



出土した金具を装着した帯の復元想定図

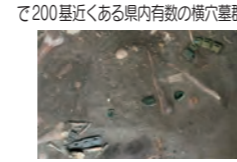
⑤矢本横穴墓群(東松島市)

【復興調査】治山事業

古代牡鹿郡周辺を支配していた奈良時代前半頃の有力者の墓の中から、銅製の帯金具が17点出土しました。これは、当時の役人や地方の有力者が身に付けていた革帯(ベルト)の飾り金具であり、4点は牛革とみられる帯に装着された状態で出土しました。このような出土例は全国的にも極めて珍しく、とても貴重な資料です。



帯金具は埋葬された人骨と一緒に出土しました。



帯金具は埋葬された人骨と一緒に出土しました。

関東から来た移民の住居



火災で焼けた住居の柱や屋根の材が床を覆っています。



関東地方と作り方が共通する土器



写真の調査区では竪穴住居跡が5軒発見されました。(南東から)

⑥御駒堂遺跡(栗原市)

発見した竪穴住居跡は、煮炊きをするカマドが住居の外に張り出していることなど、奈良時代前半の関東地方の竪穴住居や土器と共通する特徴があります。当時の歴史書には、同時代に関東地方から宮城県北部へ多くの移民を送ったと記されており、今回の調査結果はこれを裏付けるものと考えられます。

奈良時代の石組カマド

⑧崎山遺跡(女川町)

【復興調査】土地区画整理事業

奈良時代の竪穴住居跡が2軒発見されました。住居には石を組んだカマドが作られています。こうした石組カマドは、宮城県では石巻を中心とした沿岸地域や県南西部で見つかり、その中で最も古いものです。また、住居から製塩土器がまとまって出土していることから、周辺で塩作りが行われていたと考えられます。



カマドの煙は、石組の煙道を通して住居の外に出ます。



2軒の竪穴住居跡は、一辺約3.5mの正方形で、北側の壁にカマドが作られています。

竪穴住居跡2出土の製塩土器。海水を入れて火にかけて、塩を作るのに用いられました。

古代巨理郡の役所跡か

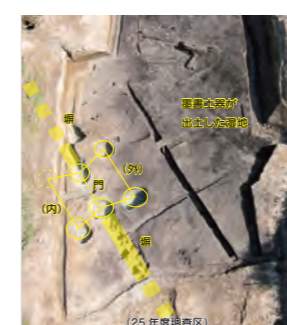


「大領」の文字は、須恵器の環(食器)の底に書かれています。(底径6～9cm)

⑨熊の作遺跡(山元町)

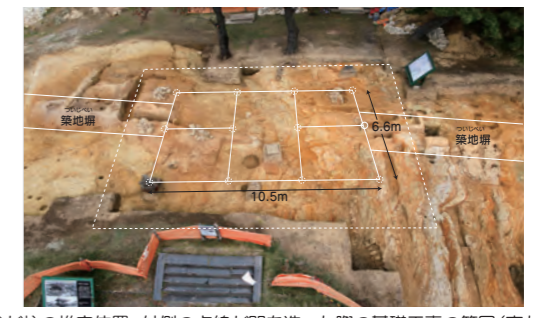
【復興調査】JRR常磐線移設事業

平成25年度の調査で、奈良～平安時代の大型建物群と、これらをつなぐ門の跡が発見されました。今年度の調査では、門の外側に広がる湿地から、「大領」と墨書された土器が8点出土しました。「大領」は古代の郡を治めた役人の職名で、この地に巨理郡で最も身分の高い人物がいたことを示しています。このことから、見つかった建物群は巨理郡の役所跡の一部と考えられます。



○は門の柱の位置で、扉がつく柱列の前後に4本の柱が立つ「四脚門」と推定されます。(北西から)

多賀城南門復元に向けて



○が柱の推定位置、外側の点線が門を造った際の基礎工事の範囲(南から)

⑦特別史跡多賀城跡(多賀城市)

南門は陸奥国府多賀城を囲む塀の南側中央に造られた正門です。中心施設である政庁から南へ約310mのところとあり、扉がつく柱列の前後に8本の柱が立つ「八脚門」とよばれるものです。調査の結果、南門の推定規模は東西約10.5m、南北約6.6mで、正門にふさわしい城内最大規模の門であることがわかりました。現在、建物の立体復元が計画されています。



南門は政庁に向かう正面にありました。(南から)



復元イメージ図(提供:多賀城市教育委員会)

2軒の竪穴住居跡は、一辺約3.5mの正方形で、北側の壁にカマドが作られています。

竪穴住居跡2出土の製塩土器。海水を入れて火にかけて、塩を作るのに用いられました。

古代陸奥国の一大生産地帯



斜面に炉や窯が密集して発見されました。(南から)窯は幅0.6～2.5m、長さ4～10mで、本来は地下にトンネル状に掘りこまれていました。

⑩新中永窪遺跡(山元町)

【復興調査】JRR常磐線移設事業

熊の作遺跡から約1.5km南にあり、奈良時代後半の製鉄炉1基、製鉄に使う木炭を焼いた窯6基、須恵器を焼いた窯3基が発見されました。これらは丘陵の斜面に密集して造られ、繰り返し使用されていることから、鉄や土器などの生産活動が盛んに行われていた様子がうかがえます。福島県相馬地方には古代陸奥国の一大生産地帯がありましたが、巨理郡に属していたこの遺跡も、その一翼を担っていたことを示しています。



窯の中には割れてしまった須恵器(上)、取り出されなかった木炭(下)が残っていました。